

地盤調査規格・基準委員会

平成23年度第1回 議事録

日 時	平成23年 5月16日 (水) 14:00 ~ 17:00			場 所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫	×	幹事(岩)	長田 昌彦	○	幹事(土)	利藤 房男	
委員	浅古 勝久	×	WG1委員	松島 潤	○	WG1委員	斉藤 秀樹	○
WG2委員	木村 英雄	○	WG2委員	水谷 崇亮	○	WG3委員	井尻 裕二	×
WG3委員	小松 満	○	WG4委員	平林 弘	×	WG5委員	小早川 博亮	×
WG5委員	山本 裕司	○	WG6委員	中村 洋丈	○	WG7委員	浅井 健一	○
WG7委員	藤崎 勝利	×	WG8委員	日比 義彦	○	WG8委員	藤根 拓	○
WG10委員	太田 英将	×						

○ : 出席 ○ : 代理出席 × : 欠席 : 未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H23-2-23)	・ 資料23-1-1
ワーキング2,3,4,6,7,8	・ 改定基準に対する意見 (基準部会より)	・ 資料23-1-2
ワーキング1、5、9	・ 改定基準	・ 資料23-1-3 WG1,5,9
ワーキング1~10	・ 解説	・ 資料23-1-4 WG1~WG10
基準部会	平成23年度 第1回基準部会報告	・ 資料23-1-5
試料の乱れに関する用語		・ 谷委員長提出資料

審議事項

(1) 前回議事録確認 (資料23-1-1)

・ 特に、意見なし。

(2) ワーキング2,3,4,6,7,8 改定基準に対する意見 (基準部会) に関して (資料23-1-2)

・ 基準部会からの意見に対しては、資料23-1-2の一覧表にワーキング毎に「指摘・意見に対する対応方針」の欄に記載して、修正した基準と一緒に、幹事宛に6/27(月)までに送付する。次回の基準部会(7/1)再度審議事項とする。

(3) ワーキング1,5,9 改訂基準 (資料23-1-3 WG1,5,9)

・ ワーキング1,9に関しては、指摘事項を修正して、新旧対照表、修正した基準を幹事宛に6/27(月)までに送付する。次回の基準部会(7/1)再度審議事項とする。ワーキング5は、6/3のワーキングの進捗等を踏まえ、基準部会への提出時期を決めることとする。

・ ワーキング5の内、「土壌硬度計」、「針貫入試験」は、指摘事項を修正後、学会事務局にわたし、新規基準として地盤工学会誌に掲載する(既に、基準部承認済みで、学会誌への掲載が遅れていたため)。

WG1

< 電気検層 >

- ・ まだ図が付いていないので、貼り付ける。
- ・ 本文の文字がゴシック体のところがあるので、明朝に修正する。
- ・ 4 4.1 a)ゾンデ、の後に1文字あけて文章をつなぐ。

- ・ 5.1 a)「資機材の準備」、明朝をゴシックに修正。文章の文頭位置が下がりすぎている。
- ・ 最終ページ、最終行、「注記1」は「注記」に修正。

< 弾性波速度検層 >

- ・ タイトルを「サスペンション検層」としたらどうかとの意見が合ったが、商品名なので現行のタイトルとする。
- ・ 5章以降、書式設定をチェックする必要がある。

WG5

・ 全ワーキング共通、用語及び定義のタイトルに記号を付ける場合は、「JIS規格票の様式及び作成方法：H20年6月20日改正」の40p～45p（付属書D：規定）に準じて記載する。

< 物性評価型JGS3531、指標型JGS1421、ポアホールジャッキ >

- ・ JGS3531、1421は、日本分と英文の整合性を検討する。JGS1421の英文タイトル、「emphrical」「empirical」に修正。
- ・ JGS3531と1421の区別が分かりにくい。「指標」「物性」とあるが、両者とも物性値が出てくる。
- ・ JGS3531、ひずみを求めることが特徴なら、それをタイトルに書くべきでは。
- ・ 赤本のタイトルの書き方、「・・・を求めるための(試験名)」で表現できないか。
- ・ 土と岩の適用範囲を明記しないと、JGS3531、1421両者の内容が分かりづらい。1本の基準の中で、やり方を2種類(土と岩)としたらどうか。
- ・ ISOに対応とあるが、それと今回の基準の違いを知りたい。ISOに準拠して書くのが良いのでは。

< 平板載荷試験 JGS1521 >

- ・ 土と岩が統一されたことで、かえって分かりにくくなったのでは。
- ・ 平板載荷の試験法なら、最後のまとめ的なところは不要では。入れるなら、「・・・を求めるための(試験法)」とすべきでは。まとめ的なところは、解説に回せないか。
- ・ 4.3.3 注記は不要では。
- ・ 5.2.1 a)「載荷板直径の3倍以上の範囲を水平に整地する」、5.3.2 注記、「載荷板の外側端から載荷板直径の3倍以上離れた所」、両者の関連が分かりにくい。
- ・ 5.3.5 2行、「載荷板直径の5倍以上離れた位置」とあるが、大きな載荷板を使用する場合、厳しすぎないか。

< 岩盤のせん断試験方法 JGS3511 >

- ・ 英文タイトル、最初の文字以外の文頭は小文字とする。
- ・ 3.4 1行目、文頭1文字あける。
- ・ 図1と図2のタイトルが同じであるので修正。図中の記号は斜体。明朝、ゴシックが混じっている。
- ・ 5.1 文頭位置3/4文字程度下げる。
- ・ 5.3 a) 注記1、文頭1文字右に寄せる。b)2行、「厳密に60mm×600mm」「厳密に600mm×600mm」に修正。
- ・ 5.4 e) 注記4の文頭位置、1/2文字右にずらす。
- ・ 図3、(単位：cm)の表記位置が違う。本文と合わせて、mm単位とすべき。
- ・ 6 「注記1」「注記」に修正。6.1d) e) f)の「注記2,3,4」「注記1,2,3」に修正。
- ・ 図6、N、T、の説明が図1にもあり、繰返しとなっているので不要では。図9 - せん断の「-」の書体が違う。
- ・ 9.1 明朝をゴシックに修正。

< 土壌硬度計 >

- ・ 英文タイトル、最初の文字以外の文頭は小文字とする。
- ・ 3.2 3.3 「長さ(mm)」の(mm)は不要。
- ・ 4.2 1行、「 $40_{-0.5}^0$ mm」、4.3 1行、「 38 ± 0.5 mm」、記載の書式が間違っていないか確認する。
- ・ 4.2 3行、「材料はステンレス鋼(SUS 304 JIS G4303)としてよい」「材料は、SUS 304 JIS G4303に規定するステンレス鋼としてよい」の方が良いのでは。注記ならこの表現でいいが、本文に書くなら文末を「・・・してよい」「・・・する」がいいのでは。

< 針貫入試験 >

- ・英文タイトル、最初の文字以外の文頭は小文字とする。
- ・3.4 1行、「長さL(mm)」の(mm)は不要。

<岩盤のシュミット式ハンマー試験方法>

- ・5.2 1行目、1文目（対象とする・・・選定する）の意味が不明瞭。

<岩石の点載荷試験 JGS3421>

- ・3 用語のフォントをゴシックとする。
- ・4章以降の書式のチェックが必要。

WG9

<岩盤の工学的分類方法 JGS3811>

- ・2 引用規格・基準、3 用語及び定義、JGS3811と3821は相互に引用されているので、どちらが親基準か決めた書き方が必要。
- ・3.1 注記、「風化/変質」の「/」は使用できる記号か書式を確認する。
- ・3.7 付属書B,C参照を記載する。
- ・4 見出し、「分類のための調査及び試験」「分類要素の区分のための調査及び試験」の方が良いのでは。
- ・注記の文頭位置、番号と書き出しの位置が違う所があるので、確認する。
- ・分類に「」が多く使用されているが、使用しても良いか書式を確認する。
- ・「表1」「表1-」に修正。

<岩盤不連続面分布 JGS3821>

- ・3.9 「調査項目を計測して」「項目を調査して」に修正。
- ・6 2行、「6.1と6.2に示す2種類があり」「スキャンライン法、ウィンドウ法があり」の方がいいのでは。
- ・6.2 「表F.1に示す不連続面調査票に記入する」「不連続面調査票(表F.1参照)に記入する」の方がいいのでは。ただし、表F.1は付属書(参照)なので、本文で引用するべきでないのでは。

(4) ワーキング1~10 解説(資料23-1-4)

WG2

- ・解説が現在別々となっている、「ロータリー二重管」、「ロータリー三重管」、「スリーブ内臓二重管」に関して、1つの章にまとめることを承認。

(5) 試料の乱れに関する用語(谷委員長提出資料)

- ・異議なし。

報告事項

(1) 基準部会報告(資料23-1-5)

- ・特に、意見なし。